

地歴公民 (地理 B) 九州大学 文学部

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

選択記述式・論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

大問は2問構成。解答数は、選択記述式5、論述式6問(200字×3、180字×2、120字×1)

論述式の問題数は変わらなかったが、選択記述式が5つ減少した。論述式が1080字と分量が多いため、設問の意図把握、文章校正力などでスピードを要求される。

その他トピックス

【1】問1のアメリカ合衆国北東部と五大湖沿岸における工業地域の形成とその変化については、九大入試オープン地理歴史36ページ【2】問3と類似した問題であった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	論述式 (200字×2・120字)	工業生産と企業活動	19世紀後半から現在までのアメリカ合衆国北東部と五大湖沿岸における工業地域の形成とその変化を述べさせる論述問題、サードイタリーに集積している産業およびその生産方式の特徴について述べさせる論述問題、多国籍企業による分業体制やそれが地域に及ぼす影響、近年における変化について述べさせる論述問題が出題された。	標準
[2]	選択記述式・論述式 (200字・180字×2)	ラテンアメリカ地誌	1980年と2017年のブラジルにおける主な農作物の生産量とその農作物の世界第一位の生産国を示した表から作物名(小麦、大豆、キャッサバ、トウモロコシ、サトウキビ)を判定させる問題が出題された。また、アマゾン地域とアンデス山脈における伝統的な自給的農業の特徴を述べさせる論述問題、大土地所有制の特徴とラテンアメリカの社会構造に与えた影響について述べさせる論述問題、20世紀後半以降のブラジルにおける農業生産の変化とそれが社会に及ぼす影響について述べさせる論述問題が出題された。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書に記載されている地理的な知識・理論を正確に理解し、自然的要因や歴史的背景、社会的背景についても正確に理解しておく必要がある。難問はなく教科書をしっかりと学習し、理解を深めておけば十分に解答できる。論述字数が長めだが、多岐にわたる内容を問われるため、論述すべきポイントをコンパクトにまとめる必要がある。迅速に出題の意図を読み取る力と長めの文章を構成する力を日頃から鍛えておきたい。